

慶應義塾大学学術情報リポジトリ  
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	鹿島香取地方見學旅行記
Sub Title	
Author	大塚, 久雄(Otsuka, Hisao)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.3 (1928. 11) ,p.150(462)- 152(464)
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	<a href="http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281100-0151">http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281100-0151</a>

本書は、上記の前書と同一の理由により改訂再版せられたもので表題の外は全く新著と看做すべきであつて、一般にバビロニヤ研究の趣味を鼓吹するのに良い本である。たゞバビロニヤの洪水傳説その他がバイアルの中に取入れられたことは今や多くの學者の承認する處であるのに、キリスト教のために極力辯護を加へてゐるのは、どうであらうかと思はれる節ではあるが、本書發行の動機からして已を得ないのであるかも知れない。その内容は次の如くである。

- 一、バビロニヤとユーフラテス・チクリス河地方。二、バビロニヤの紀年と歴史。三、バビロン市。四、バビロニヤの創造物語。五、シルガミツシユの史詩に記せる洪水物語。六、バビロニヤの宗教上の信仰。七、ハンムラビの法典。八、バビロニヤの宗教的藝術的文獻傳説等。九、バビロニヤの王とその人民並に彼等の生活。十、バビロニヤの文字と學問。十一、バビロニヤに於ける大英博物館の發掘。十二、バビロンに近きキシ市の發掘。(間崎万里)

彙 報

鹿島香取地方見學旅行記

去る六月二日三日の二日間に亘りて史學科春季見學旅行を鹿島香取方面に行ひ、鹿島香取兩神宮及び佐原町牧野彌福寺、伊能家、清宮家等に就きて見學す。一行は教授、先輩、學生合せて十五人なりき。

六月二日(土曜日、雨天) 午前六時二十五分上野驛發水戸行の汽車に乗り、同八時五十三分石岡驛に下車して鹿島香取鐵道會社線に乗換へ、同九時三十二分濱驛に着す。直ちに同會社汽船會社丸に乗り、九時五十分同所發、霞ヶ浦を南下して鹿島に向ふ。航行二時間半の間、細雨いたづらに烟りて湖上の展望を得ざりしは遺憾なりき。零時半、北浦の東岸大船津に上陸し、同所にて中食を認め、一時四十分自動車にて官幣大鹿島神宮に詣づ。自動車は大鳥居前に捨て、大鳥居、樓門を過ぎて本殿に参拜し、社務所に到る。折柄、岡宮司不在にて禰宜吉川國男氏、主典吉川燦一郎氏等應接せられ、直ちに境内の假寶物陳列所に於て寶物類を拜觀す。後一條天皇長元七年、中宮藤原成子御祈願として當社へ納められたる二十四顆の白玉、古くより世上の問題となれる懸鐘等をはじめ、建久二年源賴朝奉納鞍骨、元和五年源家光奉納鞍骨及び鏡等、貴重なるもの多し。

寶物陳列所を出て、神社を北に進むこと數町にして名高き要石を見る。次に社務所に於て鹿島神宮古文書を拜見す。古文書總べて十六卷百六十八通なり。その中特に、元暦二年八月廿一日常陸國鹿島社司並在廳官人に下したる頼朝神札の下文、元久二年八月廿三日左近衛中將源朝臣實朝の得分押領地頭職停止の下文、天正十八年五月豊臣秀吉朱印の禁制を始め、數多き卷數、寄進狀等見る可きもの極めて多し。

古文書の見學を終りて、午後三時四十分鹿島神宮を辭し、再び社前より自動車にて大船津に還り、汽船にて潮來に向ふ。午後五時着、福彌旅館に入り一泊す。

六月三日(曇天、日曜日) 午前六時朝食後、潮來八景の一なる稻荷山(町の北方に在る小丘)に登りて潮來町全景、利根の水滄、前方遙に霞む香取神宮鎮座の丘陵等を眺め、還りて同七時五十分旅館前よりモーター船に乗りて佐原町に向ふ。途中、所謂潮來十二橋を過ぎ、わづかに咲き残る兩岸の菖蒲に水郷の情趣を味ひつつ進む。時に西北の空に筑波山の薄影を認むるを得たり。やがて船は利根の本流に出て、溯航須臾にして佐原に着く。此の間、一時間を要す。

同所より自動車にて直ちに香取神宮に向ふ。走ること十數分にして神宮大鳥居前に下車す。本殿參拜の後、案内を受けて境内の寶庫を拜觀す。神寶には國寶、海獸葡萄鏡、國寶、古舞面(三個)神代の木盾(二個)、天文十七年の銘ある香取大明神御供笠、龜山天皇御獻納「正一位勳一等香取大明神」御板額、孝明天皇邊海防禦警戒の御繪旨、藤原清光の銘ある明治天皇御奉納御太刀等、貴重

なるもの多し。

寶庫内の拜觀を終り社務所に於て古文書及び繪卷を拜見す。本社の古文書は明治四十一年香取文書集の一部として刊行せられたるが、就中、源頼朝、足利尊氏の寄進狀、北條氏の禁制、下總國香取社御造營事に關する曆應五年三月十三日平貞勝の奉狀、御社立供物日記等及び、明治十八年七月十四日岡勝谷自書献上に備ふ大藏關奉祭繪卷二卷(神撰祭御行器繪卷一卷、神撰祭御行事繪卷一卷)等一行の注意を惹きしものなり。

午前十時、香取神宮を辭し、自動車にて佐原町牧野なる眞言宗觀禪寺(妙光山蓬萊院と號す)に到る。門前に厄除弘法大師の碑を見つつ山門を入れば右に庫裡、客殿、左に數階の石段ありて上に本堂、鐘樓、大師堂等あり。

先づ客殿にて、古文書、書軸、佛像等を拜見す。古文書には佛に諸種の寄進狀多く、中にも江戸護持院大僧正隆光自筆の寄進狀等は注意すべきものなり。此の他に、國寶佛像四體は貴重なるものにて、弘安五年九州探題北條實政が香取神宮に異賊追討報賽のため奉納せしものなるが、後に神佛分離の際に觀禪寺に移りしものなり。その佛像は青銅佛にて高さ共に一尺二三寸位、背後に圓形にして直徑約二尺位、十一面觀世音、釋迦牟尼如來、地藏菩薩の三體は皆背後に銘あり、藥師如來の一體のみ後背亡びて木を以つて補ひたるものなり。

次に客殿を出て前面の石階を登り、觀音堂に入れば一體の仁王像(木像)あり、同堂建立の際地中より掘り出せしものと傳ふ。更に大師堂を右に見て裏山に登れば、墓地の中に大小十數個の板碑

あり。延文、永徳、明徳、嘉吉等の銘あり。此の他、觀音堂の墓山の墓地には二個の大なる板碑あり、共に文祿三年銘のものにして、何れも縦(地上)四尺七寸餘、横一は三尺六寸餘他は四尺一寸餘のものなり。

斯て縣門の逸足楫取(伊能)魚彦翁の墓に詣て、最後に名高き伊能忠敬翁の墓に謁す。その墓石は質素なるものにて、翁の生前をしのぶに十分なるべく、その不朽の偉業を懐ひては、しばし墓前を去る能はざりき。

午後零時四十分、觀福寺を辭し、佐原町にて中食を認めし後、午後一時半、伊能家を訪問す。當主三郎右衛門氏は忠敬翁五代の裔に當る。同家に於て、忠敬翁が沿海陸地測量等に用ひし諸器具、特に半圓方位盤、量程車、羅織等、及び測量日記、地圖、地圖製作に當りて翁に助力せし久保木清淵翁の讚ある忠敬翁の書像、「贈間宮倫宗序 文化辛未仲冬伊能忠敬」の軸、及び對數表等を拜見するを得たり。前述の巧妙なる諸器具を見ては、吾が忠敬翁の沿海實測の事業が江戸時代科學の偉績として不朽のものたること頷かれ、明治十六年二月廿七日期延より特旨を以て正四位を贈られしも當に然る可きことと思はるるなり。

かくて伊能家の厚意を謝して辭去し、更に佐原町の舊家清宮家を訪問す。突然の訪問にもかかはらず、當主利右衛門氏等快く迎接せられ、江戸末期に於ける國學者にして、經濟地理等にも詳しくかりし祖父秀堅翁の遺墨著書等々觀覽せしめらる。新撰年表、三條餘論、正氣帖、金石隨得集、下總國舊事考、舟橋社藏文書、成田參詣記、武藏近郊圖、集古十種、等數多し。

午後四時半同家を辭去す。  
以上にて此の行見學の全部を了り、佐原驛午後四時五十分發の汽車に乗り、同八時過ぎ兩國橋驛に着し、解散す。  
最後に、此の見學旅行に際して前記諸氏の寄せられたる御好意に對して深く感謝する次第なり。(大塚久雄記)

密贈交換圖書雜誌目錄

- 滋賀縣史 自第壹卷至第六卷 六册 滋賀縣 內務部
- 石川縣天然紀念物調査報告四 石川 縣
- 國體眞義 杉浦重剛、白鳥庫吉、松宮春一郎等共著 世界文庫刊行會
- 老莊思想講話 安岡正篤著(金雞文叢第四) 金雞 學 院
- 農士道概論 菅原兵治著(金雞文叢第五) 同 上
- 靜かなる 萊根譚新釋上(聖賢遺書新釋叢刊四) 同 上
- 史學雜誌三九の七、八、九。 史 學 會
- 史林一三の三。 史 學 會
- 史學會々報七。 史 學 研 究 會
- 歷史地理五二の一、二、三、四。 神宮皇學館史學會
- 歷史と地理二三の一、二三、四。 日本歷史地理學會
- 歷史教育三の四、五六。 歷史地理同友會
- 土佐史談二三、二四。 歷史教育研究會
- 筑紫史談四四。 土佐史談會
- 備後史談四の七、八、九、十。 筑紫史談會
- 名古屋史談會誌二の五。 備後郷土史會
- 名古屋史談會 名古屋史談會